故リチャード関武矩さん 思い出の記

ペテロ　内藤　均

故リチャード関武矩氏が神様の御許に召されてから早いもので一ヶ月余りが過ぎ去りました。故関武矩氏の「人と成り」はチャペルの聖歌隊長やチャペル委員会、軽井沢での合宿、その他のチャペル活動などを通して、皆さんは良くご存知でありましょう。しかし、聖路加国際病院の定年後、十年余りが過ぎてしまい、今では、勤務を始められた頃の病院活動などについてご存知ない方もおられるのでないかと思い、当時の事を述べてみます。

故関武矩氏は昭和三十四（一九五九）年四月以来四十一年間の永年に亘る勤務を平成十二（二〇〇〇）年四月四日に終わりました。最初は秘書課に勤務されており、病院の人事なども担当されておりましたので、その後に採用された職員では、故関武矩氏から面接試験を受けられた方も沢山おられると思います。

病院管理研修会　於厚生省病院管理研究所
（昭和36年10月２～31日）
後列右端：内藤均さん　前列右端：関武矩さん

当時の我が国の病院管理は未だ稚拙で、病院管理者を欧米先進国並みに管理の専門家が担当すべきだと言う気運が盛んであり、当時の厚生省（現厚生労働省）は「病院経営管理改善懇談会」を組織しその「懇談要旨」を昭和三十六（一九六一）年八月三十一日に発表されました。そして、専門的病院管理者を養成すべく「国立病院管理研究所」（現国立保健医療科学院）を設けて、多く人の養成を行いました。故関武矩氏は同年十月にその研究所の、「昭和三六年度（長期）病院管理研修会」に参加され「病院管理」について専門的に学ばれました。

それから十二年後の昭和四十八（一九七三）年にIHF（国際病院連盟）主催でロンドンにある英国王立病院管理研修所で行われた病院管理研修を受けて来られました。その内容については、聖路加国際病院の広報誌「明るい窓」の昭和四十八（一九七三）年八月二十五日号から翌年の九月二十五日号までの連載「ロンドン模様」で、十九回に亘り詳細に述べられています。

その後は、厚生省病院管理研究所やIHFの研修会で学んだ病院管理を生かされて、秘書課長、総務課長、新病院建設相談室渉外部長、事務長、広報部長を歴任、定年退職後は株式会社聖路加サービスセンター代表取締役を果たされましたが、その間、新病院建設相談室渉外部長の任では地域住民との折衝等で大変なご苦労を重ねられました。

最後に、温厚篤実な故リチャード関武矩氏を、お見送りし、四十一年間続いた大切な病院管理の仲間を失い、空虚な思い一入であります。故リチャード関武矩氏のみ霊が主の御許で安らかなる事をお祈りしつつ。

アーメン

主教巡回日

十月二十三日の礼拝は大畑喜道東京教区主教による司式・説教そして堅信式が行われ、当チャペルの三名の兄弟姉妹が主教様から按手を受け、その後の聖餐式で初陪餐にあずかりました。

以前に主教様がチャペルの管理牧師をしてくださったこともあり、礼拝後は「お帰りなさい」の声とともにロビーで歓談の一時を持ちました。

レクイエム奉唱

マチルダ　大西　礼子

十一月二日、教会暦の諸魂日に合わせて、今年もレクイエムの奉唱が行われました。司祭によりこの一年間に亡くなられた百十六名のお名前が読み上げられ、その魂の平安を参集者一同で祈りました。今年はモーツアルトのレクイエムを賛助参加の他教会や合唱団の方々と共に計六十五名で奉唱しました。

チャペルで行うレクイエム奉唱は、昭和四十年代初頭から始まりました。聖歌隊メンバー数人の他にも、初回から参加なさっている他教会の信徒のかたもあり、歴史の重みを感じます。当初から平成十三年までレクイエムを指揮された前聖歌隊隊長の関武矩氏は、今年八月、神様のもとに召されました。天国で私たちの歌声をどんな思いで聴いておられたでしょうか。

病院スタッフのかた、チャペル信徒のかたも、会場設営や受付・誘導などで、レクイエム奉唱会を毎年支えてくださっています。ありがたく御礼申し上げます。

レクイエム奉唱会が途絶えることなく引き継がれるよう、努力していきたいと思います。

レクイエム奉唱　11月2日　諸魂日